

2011年度一級建築士設計製図試験課題が22日に発表された。今年度の課題は「介護老人保健施設」。近年の世情を反映したものであり「高齢者社会」のあり方の提言につながるものと言える。課題発表を受け、建築関連資格の専門指導校として

総合資格

て全国に67拠点を展開し、毎年、一級建築士合格者の約半数を輩出している総合資格（東京都新宿区、岸隆司社長）は、課題分析をスタートし、23日、全国から担当講師を集めて課題対策会議を行った。

会議を経て開発された各種教材

一級建築士設計製図試験 課題発表で分析スタート

は、今月末から開講する設計製図試験対策講座に投入する。同社が運営するスクール総合資格学院は、約15人の受講生に1人の講師がつき、納得できるまで指導を受けられるのが最大の特徴。講座終了後も学習できる自習環境も完備、ここでも講師の指導を受けることができる。

「建築士法の改正に伴う新試験では、建築士としての資質が問われる試験へと移行している。それだけに、建築設計全般に関する基本的な知識・能力が試される」（同学院）。設計製図試験は10月上旬。今夏の約2カ月間をどのように過ごすかが合否を左右する。受験生たちの夏もこれからが本番だ。